

としょかん宇治

No. 22

1990年11月1日発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511

made to check that everythis composition. However,continued until the early Edc
 perfect. A simple boxwood seao most often used byPeriod, when the growth of urban
 cost about ¥10,000 and takes in everyday life is thecenters and an expanding economy
 3 hours to make. Complicated , a general purpose sealfostered the use of personal seals
 in ivory may cost ¥80,000 andhly the family name, usedby the general public. Business
 a day or more. ordinary documents. trations required the keeping of

Before hanko is t employ
 repre shunih
 JOUX d'entame
 Biboundi
 THE BEST MOTHER GOOSE
 FIND WALDO NOW
 I know about numbers

Seal, mass produced in
 years and
 these practical
 hanko are in use seems to
 their "uniqueness". What
 important legal
 jitsu-in to be used
 er ficate from the
 office must also be
 confirming that the seal
 act belong to the user.
 can be divided

外国の絵本コーナーまもなく開設

館長 石沢 誠 司

六月十五日付で、五十嵐前館長からバトン
 タッチを受けました。微力ながら図書館の発
 展のため努力してゆきたいと思っておりますので、
 よろしくお願いいたします。

さて、中央図書館では十一月下旬へむけて
 の開設をめざし、外国の絵本コーナーの準備
 をすすめています。開設すると、府内では初
 めて、近畿の公共図書館でも数少ない特徴の
 あるコーナーとなります。

このコーナー開設のきっかけは、南京信平
 田佐吉財団からの寄付金です。特徴のあるテ
 ーマでの図書購入にあてて欲しいとの同財団
 からの申し出に、館職員が討論を重ねて出し
 た結論が、外国絵本のコーナーでした。

外国の絵本には日本の絵本にない独特の雰
 囲気・味わいがあり、その国の文化を反映し
 ています。すぐれた絵本は、言葉の壁をこえ
 て人々を楽しませてくれるものです。外国の
 絵本コーナーは、評価の高いすぐれた外国の
 絵本を集め、市民の皆さんに提供し、原書が
 持つ絵本の魅力を味わっていただくとうする
 ものです。絵の美しさを鑑賞していただいで
 も良いでしょうし、ストーリーを楽しんでい
 ただいたり、また語学の勉強にお使い戴くの
 も結構かと思えます。開設のあかつきには成
 人から児童の方々まで、それぞれの目的に応
 じてご自由に利用いただきたいと思います。
 とりあえずは欧米の絵本が中心となります
 が、ゆくゆくは他の地域の絵本も収集してゆ
 きたいと考えています。

図書館の仕事シリーズ② 図書館と統計

平成元年度		利用統計	
貸出冊数	499,543 冊	蔵書冊数	116,419 冊
蔵書冊数	116,419 冊	登録者数	49,455 人
登録者数	49,455 人		

(平成2年3月31日現在)

図書館では、毎月末及び年度末に図書館資料や利用者などの統計を、コンピューターを利用して作製しています。統計は、図書館の現状を分析し、将来の奉仕計画をたてるための重要な基礎資料となります。

又、毎年、諸統計を中心とした小冊子「年報」を、図書館を理解していただくための資料として発行しています。

市民一人あたり二・八冊の貸出し

平成元年度の貸出総数は、四九九、五四三冊。内訳は、本館四一五、七九七冊、移動図書館八三、七四六冊で、昨年度に比べると、六・八%増加しました。

一日平均の貸出冊数は本館の場合、一、四四九冊でした。

全市民の二七・九%が図書館の利用登録

地区別にみると、図書館のある折居台地区、隣接の琵琶台地区が、六〇%以上の高い登録率でした。

蔵書は市民一人当たり、〇・七冊

開館した昭和五九年度末に六七、八九二冊だった蔵書は、毎年着実に増加しています。一月から貸出しをはじめたカセ

ットブックは、三月末で六九四巻を所蔵し、よく利用されています。

「ノルウェイの森」下巻が貸出第一位(二〇三回利用)

第二位は、同書の上巻(村上春樹著)、第三位は「晴れ、ときどき殺人」(赤川次郎著)でした。この二人の他、吉本ばななや西村京太郎の著作もよく読まれました。

以上、「年報」の一部を紹介しましたが、今後とも利用者の方々に親しまれる図書館をめざして一層努力したいと考えています。

読書週間記念講演会

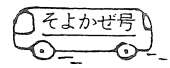
「新十津川物語」(NHKドラマ化決定)の作者が語る

テーマ

『物語のひみつ』

- * 講師 …… 川村たかし氏 (児童文学作家)
- * と き …… 十一月十五日(木) 午後一時半～三時半
- * ところ …… 中央公民館展示集会室
- * 主催 …… 宇治市中央図書館 入場は無料です。

はしれ! そよかせ号



図書館には毎週一回、新しく出る本の案内が送られてきます。そこに並んでいる本の題名を見ていると、いつもそよかせ号を利用していたいっている何人かの方の顔が浮かんできます。「今までに出た時代小説は、ほとんど読んだ」と言われるMさん。そよかせ号へはお孫さんと一緒に借りに来られます。本館も利用されるAさんは遠くのステーションでもマイカーでかけつけてくださり、お子さんはおはなし会の常連さんです。何事に対しても関心が高く、話題の本には目がないTさん。こちら側もいろんな事を吸収させていたたいいます。

私たちはできるだけ多くの人に利用してもらうことを願って、一冊一冊の本を選んでいますが、それだけでは充分なものとは言えません。図書館は利用する側とされる側とが共同でつくっていくもので、図書館の蔵書もその中の一つと言えらると思います。

一冊の本へのあなたのあつい思いをリクエスト用紙にのせて、是非お気軽に、図書館にお寄せください。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第10回

滝本 ツヤ子さん

今回は、移動図書館「北槇島」駐車場を利用されている、槇島町南落合の滝本つや子さん(四十才)にお聞きしました。



☆よく、そよかぜ号を利用いただいているようですが……。

もう、八年程になるでしょうか。北槇島は、図書館から遠いので重宝しています。

☆そよかぜ号のご感想は。去年の夏、バスが新しくなって明るく広くなったから、本も捜しやすくなりましたね。

☆どんな本を借りておられますか。私と主人の本を、いつも二十冊

借ります。文学作品が多いですね。☆どの作家のファンですか。

遠藤周作や、曾野綾子が好きなんですが、車内には余り積みこまねなくて……。そよかぜ号は若い方々の利用が多いのか、若い作家の本が多いですね。私達の年代にあわせて、もっと世代が上の作家の代表作などをいつも載せておいてほしいです。

でも、読みたい本がなくて予約すると、必ず用意してもらえます。先日は、「古い本ですが、やっと大阪の図書館で見つけました」と届けてもらって、あれは感激しました。

☆中央図書館を利用されたことは。あります。交通の便が悪いので自転車でしたら、とってもしんどかった!! でも、好きな作家の本がズラリと並んでいてワクワクしました。館内は、椅子席が少ないですね。ゆっくり本が読めるコーナーがほしいと思いました。

☆図書館へのご希望をひとこと。ここ、北槇島は図書館から遠いので、せめて小倉に図書館があれば、都合のいい時にいつでも利用できるから、ぜひとも建ててほしいです。☆分館は、職員も望んでいます。どうもありがとうございます。

折々

NEWS



読書週間記念 図書展示開催

「二冊の興奮、一冊の感動」、今年も読書週間(十月二十七日～十一月九日)が始まりました。これを記念し、今図書館では、一般書図書展示「あの人この人、親子で活躍」を開催しています。文学や芸術などさまざまな分野から、親子で活躍する著者の作品を一堂に集めて展示しています。よく知られている吉本隆明と吉本ばなな・壇一雄と壇ふみをはじめ、約五十組の親子の著書があり貸出もします。

親子それぞれの作品を読み比べたり、視点を交えての本選びなど、ひと味違う読書の世界へとみなさまをお誘いします。(十一月二十九日まで)

夏の図書館 行事報告

長い夏休み。この機会にたくさん本を読もうと袋一杯に本を借りる子ども達や、宿題調べの子ども達で例年どおり、図書館は連日、大盛況でした。期間中は、貸出も一日平均、約二千冊。四～六月の平均値より二十九%も高い利用率となりました。

宿題調べの子ども達に大好評だったのが、今年で四回目の「夏休み何でも相談コーナー」。採集した草や岩石、海藻の名前調べや、自由研究のテーマ、読書感想文の書き方などに悩む子ども達も沢山利用しました。

今年の質問の特色は、環境問題。例年多い郷土調べの他に、酸性雨や地球温暖化などについて調べる子どもが全般的に目立ちました。

八月一日から三十日まで、四回目の平和図書展示。今年も、「戦時下の子どもたち」をテーマに、約二百冊の図書を展示しました。静かに本を読みたい方々にはご迷惑をかけたかもしれませんが、活気あふれる夏の図書館でした。

郷土のはなし

菊舎の句碑

万福寺山門の前に、菊舎（一七五二〜一八二六）の

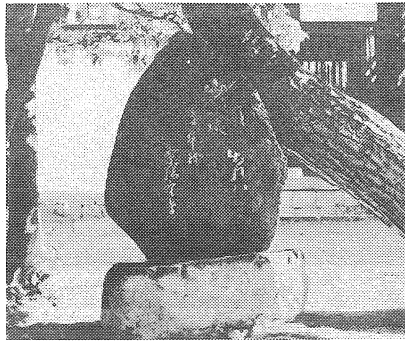
山門を

出れば日本ぞ

茶摘みうた

という句碑があります。

菊舎は江戸時代の俳人で、正しくは田上道たがみちと言ひ、宝暦二年（一七五二）長府藩（山口県下関市）の藩士の娘として生まれました。十六才の時、結婚しましたが、二十四才で夫と死別し、二十九才の時、出家して尼となりました。三十才の時、美濃国（岐阜県）の俳



菊舎の句碑

人傘狂に入門、その年以降、奥羽・北陸・九州などを巡歴し、俳諧を修行するかたわら、出羽では書、江戸では琴、大垣で茶、京都で香、長崎で漢詩を学ぶなど多芸であり、また、武家・公卿・儒者・僧など広い交友をもっていました。最初は菊車と名のつていましたが、のちに菊舎と改めています。

この句は菊舎の代表作といわれ、前書に、「又或年、宇治の里なる黄檗山に詣でて」と記されていますので、山門は万福寺を指しています。中国風の万福寺の建物を拝観し終り、寺から一步外に出てみると、茶産地宇治らしく、茶摘み歌が聞こえ、私は日本に居るのだった、と感慨深げに歌ったものでしょう。文化九年（一八一二）に刊行された「手折菊」に収められています。昭和四十年代以降、開発の波が宇治にも押し寄せ、宅地化が進んでいます。もと茶畑であった所が家屋や道路に変わってしまい、茶畑は随分少なくなり、茶摘歌も聞かなくなりました。菊舎のこの句は、江戸時代の宇治の風情を、今に伝えているといえるでしょう。なお、この句碑は、大正十一年（一九二二）に、子孫にあたる本庄熊次郎氏によって建てられたと伝えられています。

本をかりるには

(中央図書館の場所)

一 利用案内

- 市内にお住まいの方、市内に通学されている方などなたでも1人5冊、かりられます。
- 貸出券は、中央図書館・移動図書館の共通券です。

中央図書館

- 貸出期間は、3週間です。
- 開館時間は、9時～17時です。
- 休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- 月に市内25カ所を巡回しています。
- 日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- 次回巡回日に返却して下さい。



JR 宇治 京阪宇治 または 近鉄大久保から 「太陽が丘」 行バス乗車 「折居台口」 バス停 下車すぐ



予約・ リクエストもできます。

編集後記

秋の講演会でお話いただく川村たかしさんの代表作は、「新十津川物語」全十巻。明治二十二年、大和・十津川を災禍で追

われ、北海道に渡ったフキ（九才）の生涯が開拓の歴史と重ねあわせて描かれる大河小説です。児童書の中にも珠玉の作品が沢山あります。秋の半日、児童文学作家の作品に寄せる熱き思いをどうぞお聴きください。